

GeoCoach3D シリーズインストール説明書

2009/05/01

有限会社ジオ・コーチ・システムズ

<http://www.geocoach.co.jp/>

info@geocoach.co.jp

目次

1. はじめに	1
1.1. 対象アプリケーション	1
1.2. 動作環境	1
1.3. Java実行環境	2
2. Windows XP(32Bit),2000,NTへのインストール	3
2.1. Java実行環境のインストール	3
2.1.1. Java	3
2.1.2. Java3D	4
2.1.3. JAI	4
2.2. GeoCoach3Dシリーズのインストール	5
2.3. 動作環境確認	6
2.4. アンインストール	6
3. Windows Vista(32bit,64bit), XP Professional x64 へのインストール	8
3.1. Java実行環境のインストール	8
3.1.1. Java	8
3.1.2. Java3D	10
3.1.3. JAI	11
3.2. GeoCoach3Dシリーズのインストール	12
3.3. 動作環境確認	12
3.4. アンインストール	13
4. その他	14
4.1. 使用メモリの指定	14
4.2. 設定ファイル	15
4.3. トラブルシューティング	15
4.4. 画面のプロパティ	16

1. はじめに

1.1. 対象アプリケーション

このドキュメントでは GeoCoach3D シリーズのアプリケーションソフトウェアのインストールについて説明します。
以下のアプリケーションが対象です。

- ・ GeoCoach3D (DM 三次元エディタ)
- ・ 拡張 DM エディタ
- ・ 基盤地図情報作成検査ツール
- ・ 基盤地図情報メッシュ変換
- ・ 地籍フォーマット 2000 ビューF
- ・ 地籍フォーマット 2000 テキスト配置
- ・ 地籍フォーマット 2000 エディタ
- ・ シェープ三次元ビューF
- ・ DM 三次元ビューF
- ・ DEM 三次元ビューF
- ・ DXF 三次元ビューF
- ・ JPGIS-XML ビューF
- ・ NIF2 三次元ビューF
- ・ NIF2-地籍フォーマット 2000 コンバーター
- ・ SIMA 三次元ビューF
- ・ SIMA 三次元ビュー06
- ・ SIMA 地番テキスト配置
- ・ SIMA-地籍フォーマット 2000 コンバーター
- ・ S57-3D-Free (S-57 フォーマット 3次元ビューアー)

1.2. 動作環境

- ・ 32bit : Microsoft Windows Vista, XP, 2000, NT4.0(SP3 以上)
- ・ 64bit : Microsoft Windows Vista, XP Professional x64
- ・ 32bit :1GB 以上のメモリ(2GB 以上を推奨)
- ・ 64bit :4GB 以上のメモリ
- ・ 32MB 以上のビデオメモリ(64MB 以上を推奨)
- ・ 2.0GHz 以上の CPU
- ・ 50MB 以上のハードディスク
- ・ OpenGL バージョン 1.1 以降
- ・ 高解像度モニタ(1024x768 以上、フルカラー)

1.3. Java実行環境

GeoCoach3D シリーズは Java 言語で開発し Java3D および JAI を使用しています。

用語	内容
Java	Java 言語で作成されたアプリケーションを実行するための環境
Java3D	Java の環境で 3 次元表示のためのパッケージ
JAI	Java の環境で TIFF などのイメージを処理するためのパッケージ

GeoCoach3D シリーズを実行するためには、この 3 つの環境(Java と Java3D, JAI)をインストールしておく必要があります。既に Java がインストールされている場合、バージョンを確認してください。推奨する Java のバージョンは Windows のオペレーティングシステムにより異なります。Java、Java3D、JAI の順でインストールしてください。

2. Windows XP(32Bit),2000,NTへのインストール

32bit の Windows XP, 2000, NT(SP3 以上)へのインストール方法です。

2.1. Java実行環境のインストール

2.1.1. Java

Java バージョ 1.4.2_15 で開発および動作確認を行っています。このバージョンの Java 実行環境をダウンロード、インストールしてください。既に他のバージョンの Java がインストールされている場合、一旦すべて削除してから、1.4.2_15 をインストールしてください。

<http://java.sun.com/products/archive/index.html>

「Archive: Java[tm] Technology Products Download」のページで、「J2SDK/J2RE-1.4」で「1.4.2_15」を選択して「Go」ボタンを押します。



「J2RE 1.4.2_15」の「Download J2RE」を選択します。「J2SDK」ではありません。



「Platform」で「Windows」を選択し、ライセンスについてチェックを入れ、「Continue」ボタンを押します。



「Windows Offline Installation」にチェックを入れ、「j2re-1_4_2_15-windows-i586-p.exe」を選択しダウンロードします。「Online」ではありません。

File Description and Name	Size
Windows Offline Installation	14.92 MB
j2re-1_4_2_15-windows-i586-p.exe	

ダウンロードした「j2re-1_4_2_15-windows-i586-p.exe」を実行し、Java の実行環境をインストールします。Windows XP Professional と NT4.0 では管理者権限で実行します。

2.1.2. Java3D

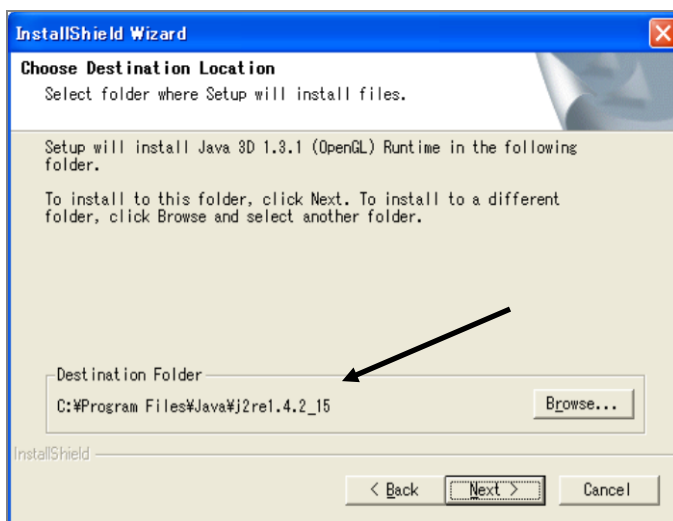
Java3D は Java 実行環境上で動作する 3 次元表示機能です。Java3D バージョン 1.3.1 で開発および動作確認を行っています。このバージョンの Java3D 実行環境をダウンロード、インストールしてください。

<https://java3d.dev.java.net/binary-builds-old.html>

ウィンドウの下側で「1.3.1」のインストーラがダウンロードできます。



「java3d-1_3_1-windows-i586-opengl-rt.exe」をダウンロードし、Java3D の実行環境をインストールします。Windows XP Professional と NT4.0 では管理者権限で実行します。インストール時に先にインストールした Java (1.4.2_15) のフォルダを表示しますので、そこにインストールします。別のフォルダを指定すると、アプリケーションが起動しない問題が発生します。



2.1.3. JAI

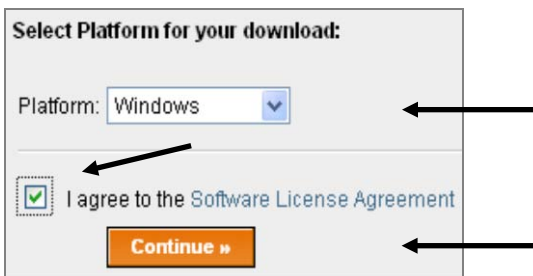
JAI は Java 実行環境上で動作する TIFF など画像ファイルの処理機能です。バージョン 1.0_01 で開発および動作確認を行っています。このバージョンの JAI をダウンロード、インストールしてください。オルソ画像の貼り付けなど、画像ファイルを扱うことがなければ、このインストールは不要です。

http://java.sun.com/products/java-media/jai/downloads/download-iiio-1_0_01.html

「Download」を選択します。



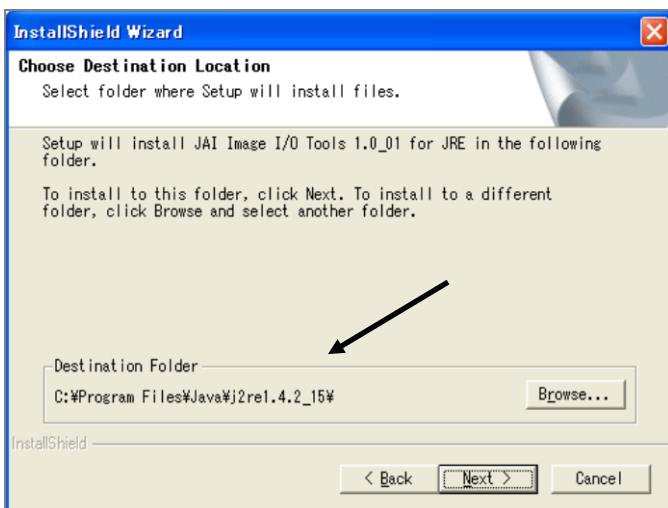
「Platform」で「Windows」を選択し、ライセンスにチェックを入れ、「Continue」ボタンを押します。



「Windows JRE Install」を選択し、ダウンロードします。

File Description and Name	Size
Windows Signed Auto-Install ↓ jai_imageio-1_0_01-windows-i586-jar.zip	5.77 MB
Windows JRE Install ↓ jai_imageio-1_0_01-lib-windows-i586-jre.exe	6.24 MB
Windows JDK Install ↓ jai_imageio-1_0_01-lib-windows-i586-jdk.exe	6.24 MB
Windows CLASSPATH Install ↓ jai_imageio-1_0_01-lib-windows-i586.exe	6.24 MB

ダウンロードした「jai_imageio-1_0_01-lib-windows-i586」を実行します。インストール時にフォルダ名確認用のダイアログが表示されますので、Javaの環境「1.4.2_15」のフォルダにインストールされることを確認してください。



2.2. GeoCoach3Dシリーズのインストール

アーカイブファイルをダウンロードし、解凍します。

GeoCoach3D-***-2-***-setup.lzh あるいは GeoCoach3D-***-1-***-setup.lzh

[S57-3D-Free]ではアーカイブファイルに含まれる次のファイルを Java 実行環境のフォルダに置いてください。GPS との通信に必要なファイルです。

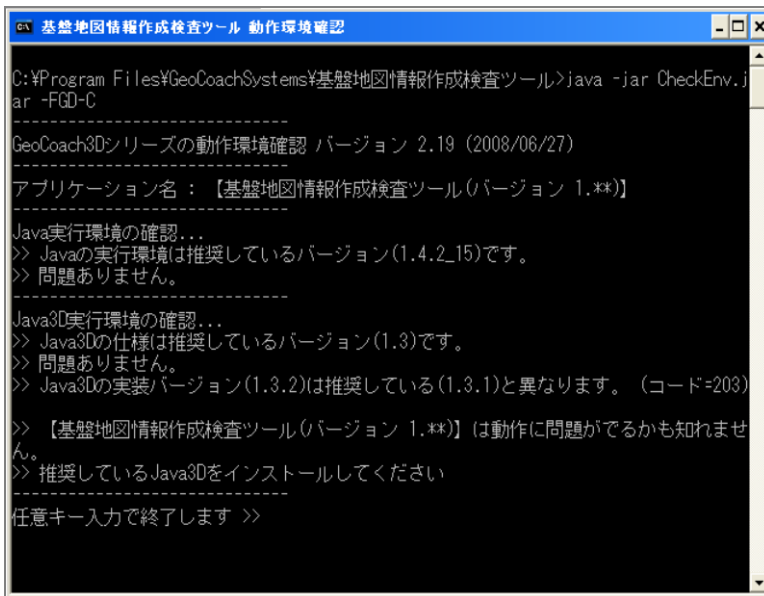
Javax.comm.properties	C:\Program Files\Java\j2rel.4.2_15\lib
comm.jar	C:\Program Files\Java\j2rel.4.2_15\lib\ext

セットアップを実行し、アプリケーションをインストールします。

GeoCoach3D-***-2-***-setup.exe あるいは GeoCoach3D-***-1-***-setup.exe

2.3. 動作環境確認

「スタートメニュー」の「GeoCoachSystems」の[(アプリケーション名) 動作環境確認]を選択し、Java と Java3D 環境を確認します。もし、Java の実行環境がインストールされていなければ、「コマンドまたはファイル名が違います」または「Java Runtime を見つけることができません」とメッセージを表示します。また、バージョンの違いなどがあればその内容を表示します。



「スタートメニュー」の「GeoCoachSystems」の[(アプリケーション名)]で、アプリケーションが起動します。3次元表示のアプリケーションの場合、ファイルを開き「3D表示」パネルに地物が表示されればOKです。もし表示されない場合、「4.2画面のプロパティ」を参照してください。

64bitに対応しているアプリケーションについては、「3.3 動作環境確認」を参照してください。

2.4. アンインストール

アンインストールは、インストールとは逆の順序で行ってください。

「スタートメニュー」の「GeoCoachSystems」の[(アプリケーション名) アンインストール]を実行します。アプリケーション名のフォルダが残った場合、削除してください。他のGeoCoach3Dシリーズのアプリケーションが残っている場合、Javaの環境はアンインストールせずに残しておきます。

JAIのアンインストールは「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」で「JAI Image I/O Tools 1.0_01」を削除します

Java3D のアンインストールは「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」で「Java 3D 1.3.1(OpenGL)」を削除します

Java のアンインストールは「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」で「Java 2 Runtime Environment Standard Edition v1.4.2_15」を削除します。

GeoCoach3D シリーズのアプリケーションをバージョンアップするには、アプリケーションのみを上書きでインストールしてください。Java 関係の環境を更新する必要はありません。

3. Windows Vista(32bit,64bit), XP Professional x64 へのインストール

32bit 版の OS だと、Java アプリケーションが使えるメモリは最大約 1.5GB までですが、64bit 版の OS だと、パソコンに搭載しているメモリをすべて使えます。大量のデータを処理しなければならない場合、64bit 版の Vista あるいは XP Professional x64 での運用をお勧めします。

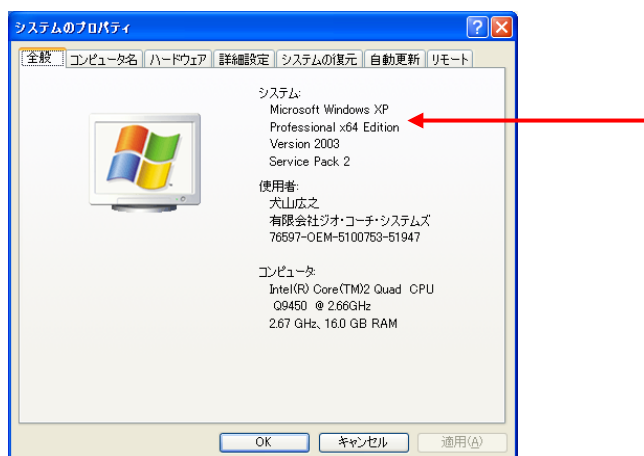
現在、以下のアプリケーションが Vista(32bit,64bit)と XP Professional X64 に対応しています。順次追加していく予定です。

アプリケーション	バージョン	日付
拡張 DM エディタ	2.19 以上	2008/10/15 以降
GeoCoach3D	2.34 以上	2008/10/15 以降
基盤地図情報作成検査ツール	1.12 以上	2008/10/15 以降
DM 三次元ビューF	2.08 以上	2008/10/15 以降
地籍フォーマット 2000 ビューF	2.03 以上	2008/10/15 以降
DEM 三次元ビューF	1.01 以上	2008/11/12 以降
SIMA 三次元ビューF	2.02 以上	2008/11/12 以降
JPGIS-XML ビューF	0.12 以上	2008/11/13 以降
シェープ三次元ビューF	1.01 以上	2008/11/21 以降
基盤地図情報メッシュ変換	0.00 以上	2009/04/29 以降
S57-3D-Free(S-57 フォーマット 3 次元ビューアー)	1.00 以上	2009/04/30 以降
NIF2 三次元ビューF	2.00 以上	2009/05/01 以降

なお、以下のアプリケーションは先行して XP Professional X64 に対応しています。

アプリケーション	バージョン	日付
基盤地図情報作成検査ツール	1.04 以上	2008/08/29 以降
拡張 DM エディタ	2.16 以上	2008/09/01 以降
GeoCoach3D	2.32 以上	2008/09/01 以降
DM 三次元ビューF	2.07 以上	2008/09/01 以降
地籍フォーマット 2000 ビューF	2.02 以上	2008/10/01 以降

Windows が 64bit あるいは 32bit かは「システムのプロパティ」の表示で確認できます。



3.1. Java実行環境のインストール

3.1.1. Java

Java は「5.0 Update 15」を次のページからダウンロードしインストールしてください。

<http://java.sun.com/products/archive/index.html>

「JDK/JRE-5.0」の「5.0 Update 15」を選択し、「Go」ボタンを押します。

Java 2 Platform Standard Edition (J2SE)

JDK/JRE - 6 6 Update 6 Go

JDK/JRE - 5.0 5.0 Update 15 Go

J2SDK/J2RE - 1.4 1.4.2_17 Go

「Download JDK」を選択します。「JRE」ではありません。

JDK 5.0 Update 15 includes the JVM technology

The Java Development Kit (JDK) supports creating Java applications. [More info...](#)

[Download JDK](#) [Installation Instructions](#)

JRE 5.0 Update 15 includes the JVM technology

The J2SE Runtime Environment (JRE) allows end-users to run Java applications. [More info...](#)

[Download JRE](#) [Installation Instructions](#)

「Platform」で64bitでは「Windows x64」、32bitでは「Windows」を選択し、ライセンスにチェックを入れて、「Continue」ボタンを押します。

Select Platform and Language for your download:

Platform: Windows x64

Language: Multi-language

I agree to the Java Development Kit 5.0 Update 15 License Agreement

Continue »

64bit

Select Platform and Language for your download:

Platform: Windows

Language: Multi-language

I agree to the Java Development Kit 5.0 Update 15 License Agreement

Continue »

32bit

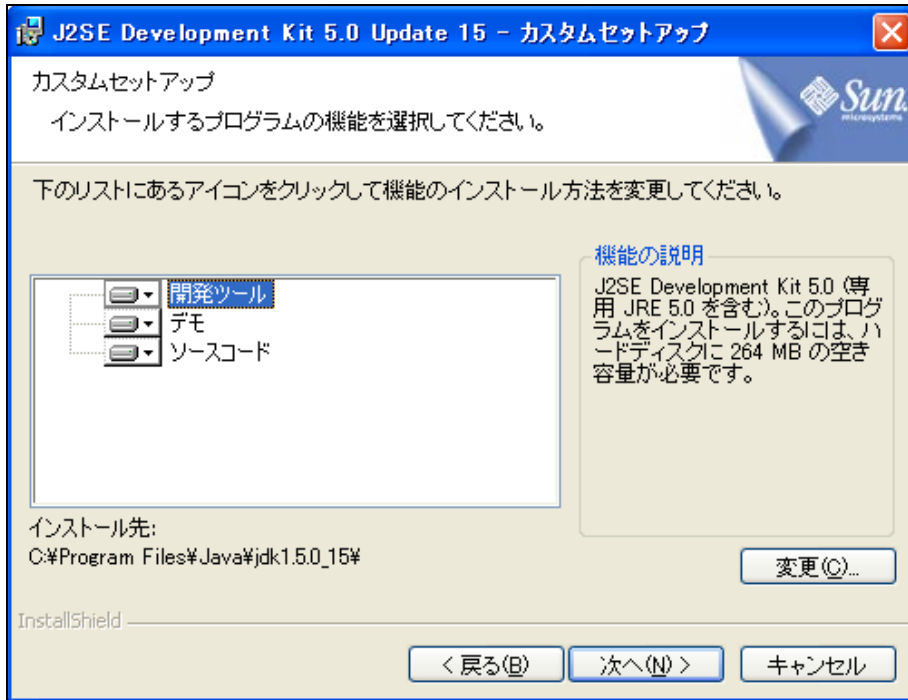
Java のインストーラ、64bitでは「jdk-1_5_0_15-windows-amd64.exe」、32bitでは「jdk-1_5_0_15-windows-i586-p.exe」をクリックし、ダウンロードします。

<input checked="" type="checkbox"/>	File Description and Name	Size
<input checked="" type="checkbox"/>	Windows x64 executable (use 32-bit version for applet and Java Web Start support)	32.99 MB
	jdk-1_5_0_15-windows-amd64.exe	

64bit

File Description and Name	Size
<input checked="" type="checkbox"/> Windows Offline Installation ↓ jdk-1_5_0_15-windows-i586-p.exe ←	51.75 MB

ダウンロードした「jdk-1_5_0_15-windows-amd64.exe」あるいは「jdk-1_5_0_15-windows-i586-p.exe」を実行し、デフォルトの設定でインストールします。



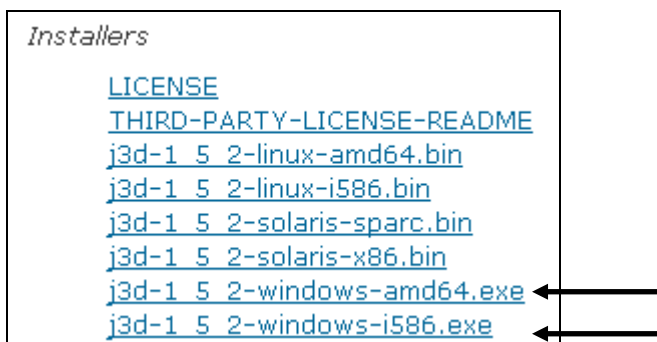
インストール後、登録のウィンドウが標示されますが、登録は不要です。

3.1.2. Java3D

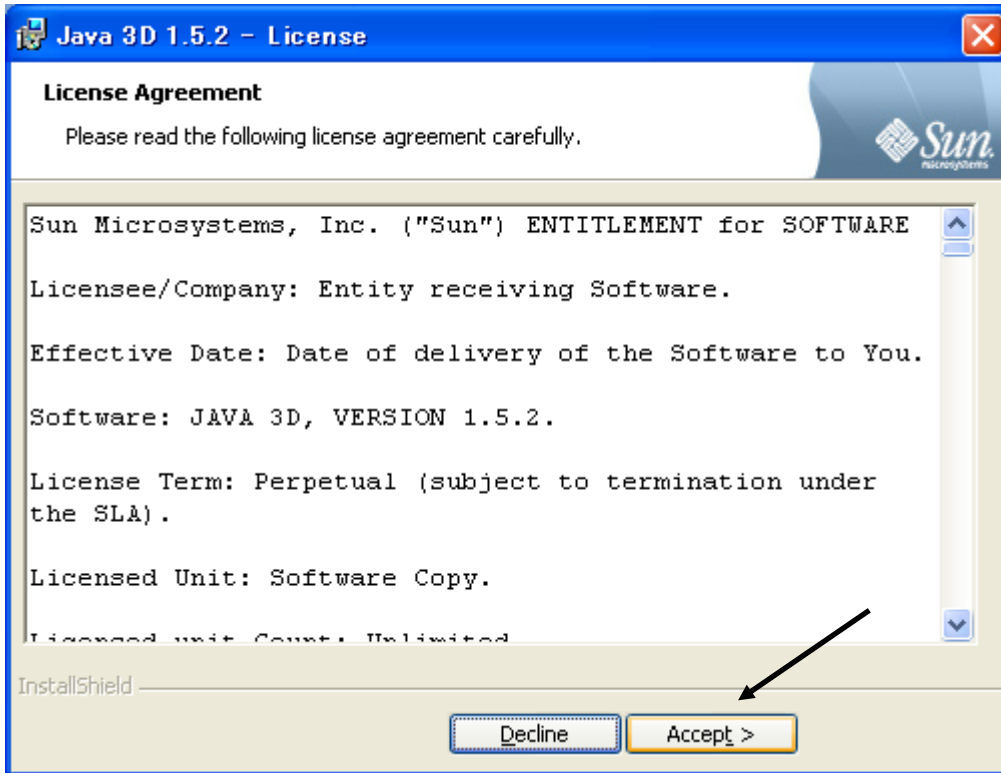
Java3D はバージョン「1.5.2」をダウンロードしてください。

<https://java3d.dev.java.net/binary-builds.html>

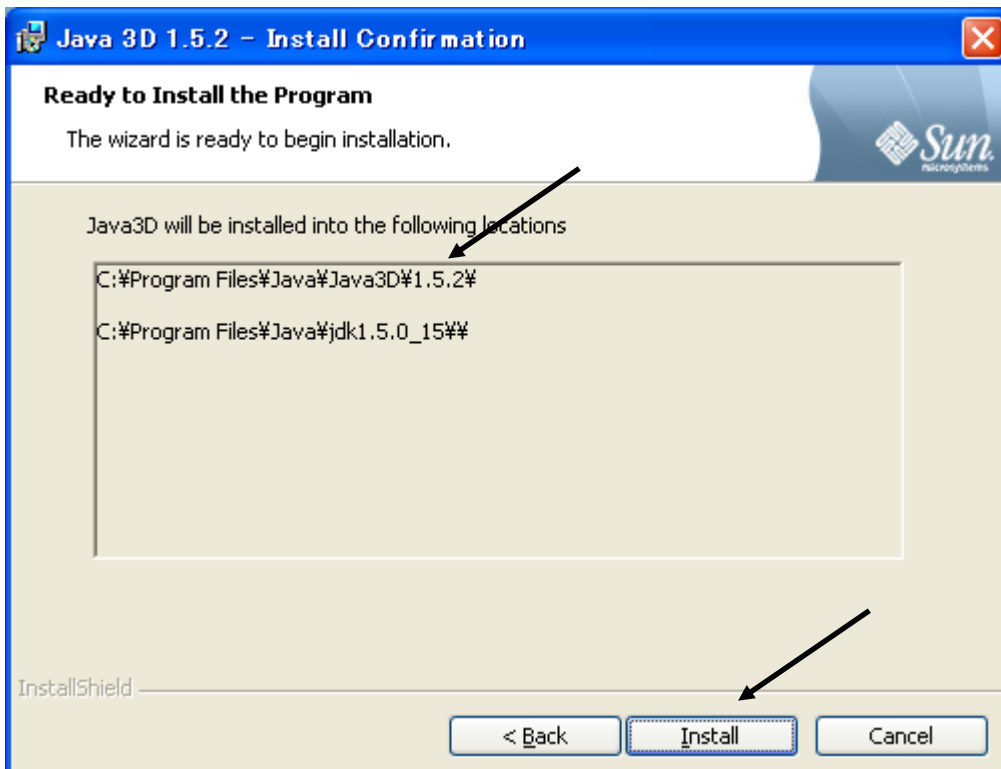
64bit では「j3d-1_5_2-windows-amd64.exe」、32bit では「j3d-1_5_2-windows-i586.exe」をダウンロードし、保存します。



ダウンロードしたインストーラを実行します。



先にインストールした Java 1.5.2 のフォルダを参照していることを確認してください。



3.1.3. JAI

JAI は Java 実行環境上で動作する TIFF など画像ファイルの処理機能です。GeoCoach3D シリーズのアプリケ

ーションをインストールした後、インストールフォルダにあるファイル「jai_imageio.jar」をコピーして Java のフォルダに貼り付けてください。

ファイル名	jai_imageio.jar
コピー元	C:\Program Files (x86)\GeoCoachSystems\アプリケーション名
貼り付け先	C:\Program Files\Java\jdk1.5.0_15\jre\lib\ext

3.2. GeoCoach3Dシリーズのインストール

アーカイブファイルをダウンロードし、解凍します。インストーラは 32bit と 64bit 共通です。

GeoCoach3D-***-2-***-setup.lzh あるいは GeoCoach3D-***-1-***-setup.lzh

[S57-3D-Free]ではアーカイブファイルに含まれる次のファイルを Java 実行環境のフォルダに置いてください。GPS との通信に必要なファイルです。

javax.comm.properties	C:\Program Files\Java\jdk1.5.0_15\jre\lib
comm.jar	C:\Program Files\Java\jdk1.5.0_15\jre\lib\ext

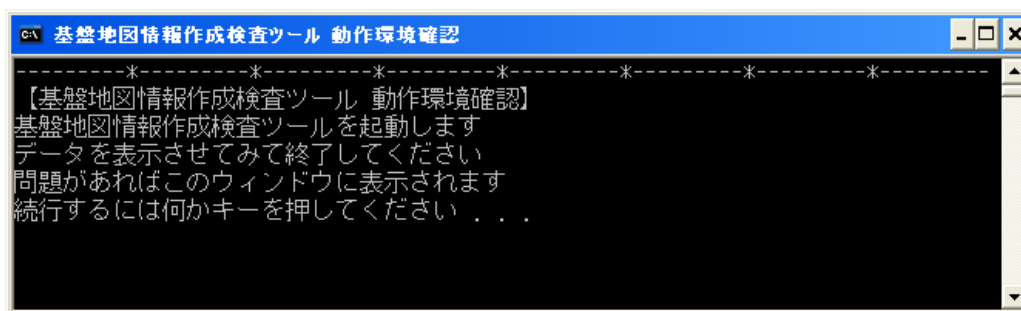
セットアップを実行し、アプリケーションをインストールします。

GeoCoach3D-***-2-***-setup.exe あるいは GeoCoach3D-***-1-***-setup.exe

アプリケーションはデフォルトで 64bit では「C:\Program Files (x86)\GeoCoachSystems」、32bit では「C:\Program Files\GeoCoachSystems」の下にインストールされます。

3.3. 動作環境確認

「スタートメニュー」の「GeoCoachSystems」の[(アプリケーション名) 動作環境確認]を選択し、Java と Java3D 環境などを確認します。もし、Java の実行環境がインストールされていなければ、「コマンドまたはファイル名が違います」または「Java Runtime を見つけることができません」とメッセージを表示します。



任意のキーを押すと、アプリケーションを起動します。データファイルを開いて表示をしてみてください。3次元表示のアプリケーションの場合、ファイルを開き「3D表示」パネルに地物が表示されれば OK です。もし表示されない場合、「4.2 画面のプロパティ」を参照してください。アプリケーションを終了後、問題があれば「-----*-----*-----」の間にエラーメッセージを表示しています。

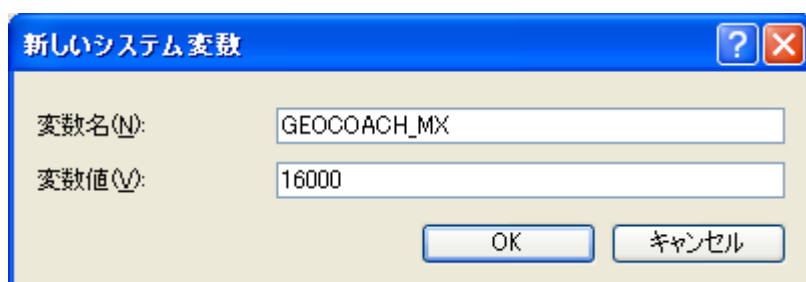
4. その他

4.1. 使用メモリの指定

アプリケーションが使用する最大のメモリサイズはデフォルトで以下のように設定しています。

OS	Java	メモリサイズ(MB)
Vista(64bit), XP Professional x64	1.5.0_15(5.0 Update 15)	4000
Vista(32bit)	1.5.0_15(5.0 Update 15)	1024
XP(32bit), NT, 2000	1.4.2_15	1024

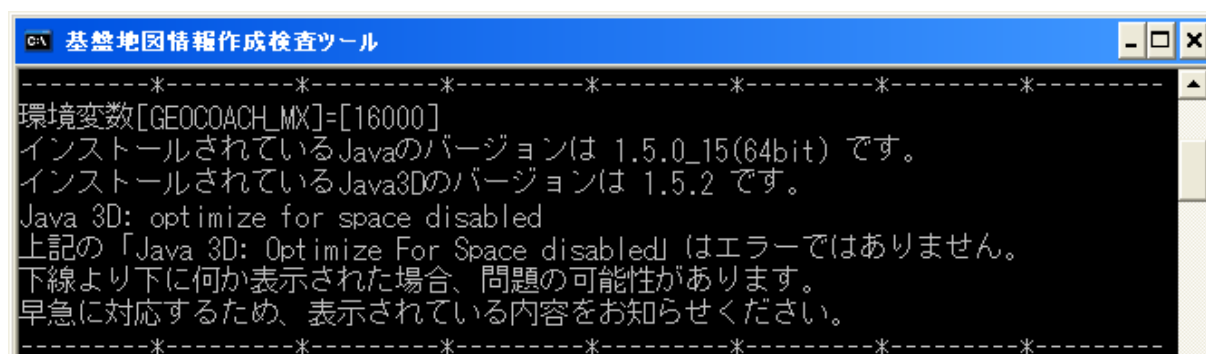
64bit の場合など、大量のメモリを搭載している場合、最大のメモリサイズを大きくできます。コントロールパネルの「システムプロパティ」から「詳細設定」の「環境変数」を開きます。システムの環境変数に「新規」ボタンで、変数名「GEOCOACH_MX」、変数値に最大のメモリサイズを MB で指定してください。



上図は、16GB のメモリを搭載したパソコンについて、使用するメモリを 16000MB に指定した例です。64bit の場合、搭載しているメモリとほぼ同じ値を指定してください。32bit の場合、Java のバージョンによって、指定できる値の最大値に制限があります。

OS	Java	最大値 (MB)
Vista(32bit)	1.5.0_15(5.0 Update 15)	1408
XP(32bit), NT, 2000	1.4.2_15	1222

アプリケーション起動時に、コマンドプロンプトウィンドウに「GEOCOACH_MX」の設定値を表示します。



仮想メモリの設定などによっては、最大値を指定した場合、Java が起動できないで、次のようなエラーが出る場合があります。その場合には、「1200」あるいは「1024」を設定してみてください。

```
Error occurred during initialization of VM
Could not reserve enough space for object heap
Could not create the Java virtual machine.
```

4.2. 設定ファイル

WindowsXP,NT,2000 ではダイアログの設定などはインストールフォルダ下に記録ファイルを作っていました。Vista では、セキュリティの関係でインストールフォルダ下に記録ファイルを作れないので、別のフォルダに作成します。また、XP,NT,2000 では地物の表示色などの設定ファイルを変更したい場合、そのファイルのコピーがインストールフォルダ下の「def」フォルダにあれば優先して参照するようにしていましたが、Vista では同じ理由で別フォルダにコピーを置いてください。

Windows XP, NT, 2000

内容	記録場所
ダイアログの記録	インストールフォルダ下の「ini」フォルダ
開いたファイルのフォルダの記録	インストールフォルダ
地物の表示色などの設定ファイル	インストールフォルダ下の「def」フォルダ

Windows Vista

内容	記録場所
ダイアログの記録	C:\ユーザー¥(ログイン名)\¥AppData¥Roaming¥GeoCoachSystems¥(アプリケーション名)\¥ini
開いたファイルのフォルダの記録	C:\ユーザー¥(ログイン名)\¥AppData¥Roaming¥GeoCoachSystems¥(アプリケーション名)\¥txt
地物の表示色などの設定ファイル	C:\ユーザー¥(ログイン名)\¥AppData¥Roaming¥GeoCoachSystems¥(アプリケーション名)

4.3. トラブルシューティング

GeoCoach3D シリーズのアプリケーションに共通する動作環境についてのトラブルシューティングです。個々のアプリケーションの問題については、それぞれの説明書を参照してください。

現象	原因・対応
「Exception in thread “main” java.lang.UnsatisfiedLinkError : *** at java.lang.ClassLoader\$NativeLibrary.load(Native Mathid)...」とコマンドプロンプトウィンドウに表示され、アプリケーションが起動しない。	Java3D が Java のフォルダにインストールされていない場合の問題です。Java3D が Java と異なるフォルダにインストールされた可能性があります。一旦 Java3D をアンインストールして、再インストールしてみてください。その際、インストール先が java のフォルダになっていることを確認してください。
「 ダイナミックリンクライブラリ j3D*.dll が指定されたパス***に見つかりませんでした 」とコマンドプロンプトウィンドウに表示され、アプリケーションが起動しない。	Java3D が Java のフォルダにインストールされていない場合の問題です。既に別のバージョンの Java がインストールされていて、今回 Java を別にインストールしてしまい、Java3D が古い Java の方にインストールしてしまったケースがあります。一旦 Java3D と JAI, Java をすべてアンインストールしてから、再度 Java, Java3D, JAI をインストールしてみてください。
「 ダイナミックリンクライブラリ d3d8.dll が指定されたパス***に見つかりませんでした 」とコマンドプロンプトウィンドウに表示され、アプリケーションが起動しない。	WindowsNT4.0 あるいは Windows2000 に DirectX 版の Java3D をインストールした場合に現われます。OpenGL 版をインストールしてみてください。
「 *** ERROR: Canvas3D constructed with a null GraphicsConfiguration... 」とコマンドプロンプトウィンドウに表示され、アプリケーションが起動しなかったり、3D 表示されなかったりする。	画面の色の設定が 256、32768、65536 色の場合、「最高」あるいは「True Color」にしてください。または、画面のプロパティの詳細設定で、トラブルシューティングの「ハードウェアアクセラレータ」を最大にしてみてください。
「 Fail to create vertex buffer D3DERR_OUTOFVIDEOMEMORY 」と大量のメッセージがコマンドプロンプトウィンドウに表示され、アプリケーションの反応が極端に遅くなる。	地図のデータ量が多すぎて、表示用のメモリが不足しています。DirectX 版の Java3D での現象です。OpenGL 版の Java3D に入れ替えてみてください。

ファイルは読み込んだようだが、 データが3D表示されない 。	Java, Java3D のインストール時にトラブルがあったかもしれません。Java3D, Java 両方をアンインストールしてから、再インストールしてみてください。
「Java3D: Optimize For Space disabled」とコマンドプロンプトウィンドウに表示される。	アプリケーション起動時のオプションを表示しているだけで、トラブルではありません。メモリの使用量を小さくする設定です。
マウスの中ボタンのドラッグで、3D表示が ズームできない 。	マウスの中ボタンに別の機能が設定されているかもしれません。[コントロールパネル]の[マウス]で確認してください。
ファイルを開いている途中や、TIN作成、チェック、一括処理など処理の途中で動きが遅くなる。また、Windows 自体の反応も遅くなる。	メモリが不足し、ページング(メモリの内容の一部をハードディスクに移動)を起こしている恐れがあります。ハードディスクのアクセスランプが点滅している場合、ページングの恐れが高くなります。
TIN作成、あるいはTIN読み込み後、TINがまばらに表示される。一部しか表示されない。	Java3DでDirectX版を使っている場合、現れる現象です。OpenGL版をインストールしてみてください。あるいは画面の設定を変えてみてください。[コントロールパネル]から[画面]のウィンドウを開き、[設定]タブの[詳細設定]ボタンを押すと、ビデオカードのプロパティウィンドウが開きます。[トラブルシューティング]タブで、[ハードウェアアクセラレータ]について、「カーソルと拡張画面のアクセラレータだけでなく、DirectDraw および Direct3D すべてのアクセラレータを無効にします」を指定してみてください。OpenGL版のJava3Dでも同様です。
アプリケーションのウィンドウを一瞬表示して終わります。インストールフォルダのhs_err*.logに以下のようなメッセージが残る。 An unexpected exception has been detected in native code outside the VM.Unexpected Signal : EXCEPTION_ACCESS_VIOLATION occurred at PC=0x6933eabfFunction name=DrvSetContext Library=C:\WINDOWS\system32\atioglxx.dll	OpenGL版のJava3Dで起こる問題です。DirectX版のJava3Dを使ってみてください。あるいは画面の設定を変えてみてください。[コントロールパネル]から[画面]のウィンドウを開き、[設定]タブの[詳細設定]ボタンを押すと、ビデオカードのプロパティウィンドウが開きます。[トラブルシューティング]タブで、[ハードウェアアクセラレータ]について、「カーソルと拡張画面のアクセラレータだけでなく、DirectDraw および Direct3D すべてのアクセラレータを無効にします…」を指定してみてください。OpenGL版のJava3Dでも同様です。
3Dパネルが黒でなくメニューバーの背景と同じ色になっている。地図を開いても何も表示されない。コマンドプロンプトウィンドウに「wg!CerateContext Failed: ピクセル形式が無効です。」と表示される。	[コントロールパネル]から[画面]のウィンドウを開き、[設定]タブの[詳細設定]ボタンを押すと、ビデオカードのプロパティウィンドウが開きます。[トラブルシューティング]タブで、[ハードウェアアクセラレータ]について、「カーソルと拡張画面のアクセラレータだけでなく、DirectDraw および Direct3D すべてのアクセラレータを無効にします…」を指定してみてください。
3D表示の地図がすべて赤色で表示される	上記の設定で、ハードウェアアクセラレータが最も左側の「アクセラレータをすべて無効にします…」になっている場合に、この現象が起きることがあります。上記設定にしてみてください。

4.4. 画面のプロパティ

パソコンのビデオカードとの相性によっては、アプリケーションの「3D表示」パネルに地物が表示されないことがあります。この場合、Windowsの「画面のプロパティ」の「設定」タブの「詳細設定」ボタンを押すと、ビデオカードのプロパティウィンドウが開きます。[トラブルシューティング]タブで、[ハードウェアアクセラレータ]について、「カーソルと拡張画面のアクセラレータだけでなく、DirectDraw および Direct3D すべてのアクセラレータを無効にします…」を指定してみてください。

